



東証JASDAQ上場

平成29年2月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成28年10月14日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ブロッコリー

コード番号 2706 URL <http://www.broccoli.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 森田 知治

問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員管理本部長 (氏名) 渡邊 朋浩

TEL 03-6892-2077

四半期報告書提出予定日 平成28年10月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年2月期第2四半期の業績(平成28年3月1日～平成28年8月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年2月期第2四半期	2,786	△0.6	366	9.0	372	12.3	239	12.5
28年2月期第2四半期	2,802	△9.1	335	△58.3	331	△58.9	212	△57.9

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年2月期第2四半期	5.47	—
28年2月期第2四半期	6.50	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年2月期第2四半期	9,525	8,522	89.5
28年2月期	9,680	8,457	87.4

(参考)自己資本 29年2月期第2四半期 8,522百万円 28年2月期 8,457百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年2月期	—	0.00	—	4.00	4.00
29年2月期	—	0.00	—	4.00	4.00
29年2月期(予想)	—	—	—	4.00 ～4.50	4.00 ～4.50

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年2月期の業績予想(平成28年3月1日～平成29年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,500 ～6,000	△14.5 ～△6.7	800 ～1,100	△20.8 ～8.9	800 ～1,100	△19.2 ～11.1	600 ～700	△3.6 ～12.4	13.72 ～16.00

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 有
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	29年2月期2Q	43,738,211 株	28年2月期	43,738,211 株
② 期末自己株式数	29年2月期2Q	1,323 株	28年2月期	1,323 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	29年2月期2Q	43,736,888 株	28年2月期2Q	32,736,888 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続は実施中であります。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の実績等は、業績の変化等により、上記予想数値とは異なる場合があります。業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、[添付資料]4ページ「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 四半期財務諸表	6
(1) 四半期貸借対照表	6
(2) 四半期損益計算書	8
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、設備投資をはじめとする内需が堅調に推移いたしました。中国を中心とした新興国経済の減速、英国国民投票の影響、及び円高等が景気の下押し要因となりました。

当社が属するエンターテインメント業界におきましては、スマートフォンやタブレット等のスマートデバイスにおいて、世界的な利用者増加と、端末自体の性能進化・通信インフラの発達に伴って、コンテンツの多様化は、大変早い速度で進んでおります。また、「仮想現実 (VR:バーチャルリアリティ)」や「拡張現実 (AR:オーグメンテッド・リアリティ)」といった新技術を伴った新たなプラットフォーム・新市場の創出による世界的なゲーム市場の更なる発展にも期待が寄せられており、業界自体の多様化・拡大は続いております。

当社は、かかる経営環境下において、更なる事業及び収益の拡大を図るために、1. GAME、TCGの2017年以降を担う、新主力タイトルの創出。2. 『うたの☆プリンスさまっ♪』のレジェンド化。3. トレーディングカードゲーム『Z/X (ゼクス)』の逆襲、関連サプライ製品の再構築。4. 他社ライセンスのアンテナ強化。5. 専門店への企画提案力強化と、ハピネット社との事業シナジー構築。6. 自社ビル活用と経費圧縮での利益貢献。7. BCPの深化。8. 勤務体制の整備と職場環境づくり。の8点を今期の課題として推進しております。

次に、当第2四半期累計期間における部門毎の状況は以下のとおりであります。

当社女性向けコンテンツでは、主力コンテンツ『うたの☆プリンスさまっ♪』が、TVアニメ第4期『うたの☆プリンスさまっ♪ マジLOVEレジェンドスター』を本年10月放送開始し、今夏のイベントとして『うたの☆プリンスさまっ♪』オフィシャルショップ『SHINING STORE』を、今夏で3年目の東京原宿と、初の大阪梅田開催を併せた2大都市にて期間限定オープン（東京原宿：7月23日から9月30日、大阪梅田：7月23日から8月30日）し、昨年度を超えるご来場を頂いております。

8月には特別企画『Shining Dream Festa』をスタートし、特別企画展『Shining Production presents Shining Dream Festa』を開催（ラフォーレミュージアム原宿にて8月8日から8月21日）いたしました。

このイベントでは、バックステージが楽しめる展示を始め、世界的デザイナー丸山敬太氏によるオートクチュールのステージ衣装やメイキング映像、貴重な資料等の限定公開を行い、大変盛況うちに会期を終えることができました。

各イベントにおきまして、限定のスペシャルグッズ販売を行い、『うたの☆プリンスさまっ♪』関連グッズは、大変好調に推移しております。

また、特別企画『Shining Dream Festa』では、テーマソングである「DAY DREAM」と「NIGHT DREAM」を収録した音楽CD『うたの☆プリンスさまっ♪ Shining Dream CD』を8月17日に発売し、オリコン週間シングルランキング第3位にランクインするなど、好調な販売となりました。

当社男性向けコンテンツでは、トレーディングカードゲーム『Z/X -Zillions of enemy X- (ゼクス ジリオンズ オブ エネミー エックス)』のブースター2種（『真神降臨編 神域との邂逅 (コード:ディンギル デュナミスとのかいこう)』、『真神降臨編 裏切りの連鎖 (コード:ディンギル チェイン・ビトリアル)』)及び、スターターデッキ2種（『純白の双翼 (セレスティアル・アンセム)』、『漆黒の墮界 (コラブテッド・オース)』)を計画どおり発売し、その販売数も底堅く推移しております。

Z/Xにおきましては、8月に、Z/Xスタッフによる公式生放送『イグニッション放送局』(ニコニコ生放送)の「24時間拡大版スペシャル」を開催。9月には、全国のプレイヤーから“最強”を決める初のイベント「Z/X 日本選手権」の決勝大会を大型イベント「ゼクストリーム 2016. AUTUMN in 池袋」にて開催するなど、ユーザーが楽しめる参加型の新企画を続々用意する等、反転に向けた施策を引き続き推進してまいります。

他社ライセンスグッズは、男性向けコンテンツ市場を牽引してきた『ラブライブ!』のTVアニメ新シリーズ『ラブライブ! サンシャイン!!』が7月より放映されるなど、一部盛況なタイトルもありましたが、総じて低調に推移しており、新シリーズ開発等、商品戦略の練り直しを図っております。

また、フィギュア製品につきましては、発売タイトルを精査してきた結果、通期黒字化の目途を立てることができました。

以上の結果、当第2四半期累計期間の売上高は2,786百万円（前年同期比99.4%）、売上総利益率は33.7%（前年同期比1.1ポイントダウン）、売上総利益は939百万円（前年同期比96.4%）となりました。

販売費及び一般管理費につきましては、573百万円（前年同期比89.8%）となりました。

上記要因によりまして、営業利益は366百万円（前年同期比109.0%）、経常利益は372百万円（前年同期比112.3%）、四半期純利益は239百万円（前年同期比112.5%）と前年同期比では前第2四半期累計期間を上回って推移いたしました。

当社は昨年11月に株式会社ハピネットに対して第三者割当による新株式の発行を行い、新コンテンツ開発用資金の調達を行いました。この新コンテンツ開発に基づいて、次の業績ピークへの照準を平成29年から平成30年に当て、当期におきましては、主力コンテンツ『うたの☆プリンスさまっ♪』の更なる売上拡大とレジェンド化に加え、新コンテンツの仕込み・カードゲームの立て直し・リアルグッズの利益改善に組織力をシフトし、第3四半期以降もこの推進に注力してまいります。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(流動資産)

当第2四半期会計期間末における流動資産の残高は4,393百万円で、前事業年度末に比べ135百万円減少しております。主な内容は、商品及び製品の増加148百万円などの増加要因に対し、売掛金の減少243百万円、仕掛品の減少1百万円などの減少要因であります。

(固定資産)

当第2四半期会計期間末における固定資産の残高は5,132百万円で、前事業年度末に比べ19百万円減少しております。主な内容は、投資その他の資産の増加6百万円などの増加要因に対し、有形固定資産の減少15百万円、無形固定資産の減少10百万円などの減少要因であります。

(流動負債)

当第2四半期会計期間末における流動負債の残高は940百万円で、前事業年度末に比べ221百万円減少しております。主な内容は、賞与引当金の増加33百万円などの増加要因に対し、買掛金の減少67百万円、未払法人税等の減少37百万円、返品調整引当金の減少9百万円、役員賞与引当金の減少15百万円、その他の減少123百万円などの減少要因であります。

(固定負債)

当第2四半期会計期間末における固定負債の残高は63百万円で、前事業年度末に比べ1百万円増加しております。

(純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産の残高は8,522百万円で、前事業年度末に比べ64百万円増加しております。これは、四半期純利益239百万円が計上された一方で、剰余金の配当174百万円が行われたことが主な要因であります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は前事業年度末と比べて25百万円増加し3,095百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは138百万円の資金の増加(前年同四半期累計期間は368百万円の資金の増加)となりました。その主な内訳は、たな卸資産の増加額146百万円、役員賞与引当金の減少額15百万円、返品調整引当金の減少額9百万円、仕入債務の減少額67百万円などのマイナス要因と、税引前四半期純利益の計上による372百万円、売上債権の減少額243百万円、減価償却費44百万円、賞与引当金の増加額33百万円などのプラス要因であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは70百万円の資金の増加(前年同四半期累計期間は216百万円の資金の減少)となりました。その主な内訳は、定期預金の預入による支出100百万円、有形固定資産の取得による支出17百万円、長期前払費用の取得による支出11百万円などのマイナス要因と、定期預金の払戻による収入200百万円などのプラス要因であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは183百万円の資金の減少(前年同四半期累計期間は221百万円の資金の減少)となりました。その主な内訳は、配当金の支払額172百万円、リース債務の返済による支出10百万円であります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期業績予想及び配当予定につきましては、下記「※レンジ形式の業績予想及び配当予定について」に記載しております内容に基づき、サマリー情報記載のとおりレンジ形式での表示といたします。

なお、平成28年4月8日発表の通期業績予想数値に対し、売上高につきましては、レンジの下限に+7.8%、上限に+7.1%の修正をいたしました。各利益につきましては、上半期の商品構成比の変化に伴い当初の通期業績予想からの修正は行っておりません。

※レンジ形式の業績予想及び配当予定について

「ツインエンジン」(「自社内にて開発するコンテンツのヒット創出及びハイリターンの追求」、「リアルグッズ製作での確実な収益確保」の2つを両立する事業戦略)を推進しております当社の売上構成は、

- A. ユーザー評価は、その感性に委ねられ、まさに発売してみないと市場の反応が判別できないコンテンツ部門
 - B. マーチャンダイジング、マーケティングの手法が比較的通用し、努力度やPDCA等の成果が売上と利益に反映され易い、グッズ部門
- に大別されます。

更に、コンテンツ部門におきましては、売上の振れ幅に加えて、その販売数量により利益率が大きく上下します。よって当社は、期初から第2四半期終了時までは売上・利益・配当ともにレンジ形式での予想数字として、期末に近づき数字の確実性の増す第3四半期終了時に、単独数字での発表を予定しております。ただし業績の進捗を踏まえ、上記の期日以前に合理的な算定が可能になった場合には、その時点で速やかに開示いたします。

なお、業績見通し等の将来に関する記述は、当社が発表日及び現時点で入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき作成しておりますが、業績等につきましては経営環境の変化やその他様々な要因により大きく異なる可能性がありますので、その場合には開示が可能となった時点で速やかに業績予想の修正を公表いたします。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(四半期財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計方針の変更等)

(企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)等を、第1四半期会計期間から適用し、取得関連費用を発生した事業年度の費用として計上する方法に変更いたしました。また、第1四半期会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期会計期間の四半期財務諸表に反映させる方法に変更いたします。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)及び事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

なお、当第2四半期累計期間において、四半期財務諸表に与える影響額はありません。

(減価償却方法の変更)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を第1四半期会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

この結果、当第2四半期累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

(税金費用の計算方法の変更)

税金費用については、従来、年度決算と同様の方法により計算しておりましたが、第1四半期会計期間より、年度決算で見込まれる税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法に変更しております。この変更は、四半期決算業務の一層の効率化を図り、四半期決算における迅速性に対応するためであります。

なお、この変更による影響は軽微であるため、遡及適用は行っておりません。

3. 四半期財務諸表
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年2月29日)	当第2四半期会計期間 (平成28年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,370,113	3,295,328
売掛金	809,060	565,549
商品及び製品	42,450	190,935
仕掛品	183,216	182,119
原材料及び貯蔵品	1,516	897
その他	122,321	158,649
流動資産合計	4,528,678	4,393,480
固定資産		
有形固定資産		
建物	1,126,827	1,133,184
減価償却累計額	△81,960	△108,389
建物(純額)	1,044,867	1,024,794
土地	907,414	907,414
その他	102,657	114,667
減価償却累計額	△64,746	△72,461
その他(純額)	37,911	42,205
有形固定資産合計	1,990,193	1,974,415
無形固定資産	35,056	24,821
投資その他の資産		
長期預金	3,000,000	3,000,000
その他	128,230	135,064
貸倒引当金	△2,000	△2,000
投資その他の資産合計	3,126,230	3,133,064
固定資産合計	5,151,480	5,132,301
資産合計	9,680,159	9,525,782
負債の部		
流動負債		
買掛金	540,133	472,516
未払法人税等	173,983	136,019
返品調整引当金	73,097	63,148
賞与引当金	33,593	66,728
役員賞与引当金	25,000	10,000
その他	315,403	191,657
流動負債合計	1,161,210	940,071
固定負債		
その他	61,292	63,223
固定負債合計	61,292	63,223
負債合計	1,222,503	1,003,294

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年2月29日)	当第2四半期会計期間 (平成28年8月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,361,275	2,361,275
資本剰余金	2,066,627	2,066,627
利益剰余金	4,029,453	4,093,767
自己株式	△478	△478
株主資本合計	8,456,877	8,521,191
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	778	1,295
評価・換算差額等合計	778	1,295
純資産合計	8,457,655	8,522,487
負債純資産合計	9,680,159	9,525,782

(2) 四半期損益計算書
第2四半期累計期間

	(単位：千円)	
	前第2四半期累計期間 (自平成27年3月1日 至平成27年8月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成28年3月1日 至平成28年8月31日)
売上高	2,802,148	2,786,253
売上原価	1,827,759	1,846,737
売上総利益	974,388	939,516
販売費及び一般管理費	638,403	573,133
営業利益	335,984	366,382
営業外収益		
受取利息及び配当金	481	70
不動産賃貸料	9,618	33,714
その他	2,017	1,937
営業外収益合計	12,117	35,722
営業外費用		
支払利息	829	562
不動産賃貸費用	16,065	29,477
その他	45	29
営業外費用合計	16,940	30,068
経常利益	331,161	372,036
税引前四半期純利益	331,161	372,036
法人税等	118,397	132,774
四半期純利益	212,763	239,261

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成27年3月1日 至平成27年8月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成28年3月1日 至平成28年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	331,161	372,036
減価償却費	115,702	44,494
賞与引当金の増減額(△は減少)	28,538	33,135
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△29,600	△15,000
返品調整引当金の増減額(△は減少)	9,171	△9,948
受取利息及び受取配当金	△481	△70
支払利息	829	562
売上債権の増減額(△は増加)	484,589	243,510
たな卸資産の増減額(△は増加)	△56,411	△146,769
仕入債務の増減額(△は減少)	11,852	△67,616
その他	△57,178	△151,774
小計	838,174	302,559
利息及び配当金の受取額	481	70
利息の支払額	△829	△562
法人税等の支払額	△469,185	△163,513
営業活動によるキャッシュ・フロー	368,639	138,554
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△200,000	△100,000
定期預金の払戻による収入	200,000	200,000
有形固定資産の取得による支出	△201,194	△17,911
無形固定資産の取得による支出	△23,000	△648
長期前払費用の取得による支出	△11,065	△11,065
その他	18,880	△170
投資活動によるキャッシュ・フロー	△216,379	70,204
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△211,080	△172,771
リース債務の返済による支出	△10,186	△10,772
財務活動によるキャッシュ・フロー	△221,266	△183,543
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△69,006	25,215
現金及び現金同等物の期首残高	1,652,997	3,070,113
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,583,991	3,095,328

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

当社はエンターテインメント事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。